

地域農業の維持と地域の活性化に貢献したい

障害者就労継続支援事業所 ジョブサポート希望（宝塚市）



経緯

- ・2013年の開設当初から、敷地内にある温室2棟でチンゲンサイと小松菜を主とする野菜の通年栽培を開始。併せて、近隣の遊休農地約50aを借り入れ、地元の農家からアドバイスを受けながら黒枝豆と玉ねぎを栽培。
- ・2016年、当地域（宝塚市北部に位置する西谷地区）は昔から養蚕が盛んで桑を栽培していたことから、地元農家と連携し桑の木を栽培。桑の葉を刈り取りお茶に加工して商品化する事業を始める。
- ・2022年からは、阪神農業改良普及センターの仲介により、JA兵庫六甲の枝豆出荷調製施設（三田ビーンセンター）において規格外となった黒枝豆を使った黒枝豆茶を生産。

取組内容

- ・野菜は主にJAに出荷しているが、玉ねぎは学校給食用として地元の学校に出荷。桑茶は宝塚市内のホテル、高速道路のサービスエリアの売店などで販売。
- ・利用者は、播種、定植、殺菌消毒、収穫等の農作業と桑茶の加工などの作業に従事。緑が多く空気の美味しい自然の中で、植物の生長に接することにより、心の癒しや安定を感じられるようで、長期間従事している人が多い。
- ・当地域では、人口減少と高齢化の進展に伴い、畦畔の草刈り、庭木の剪定、空き家の雑草防除など日常の作業が負担となってきた。そこで、比較的若い人材がいる当事業所がこれらの作業を請け負っているため、地元と良好な関係が構築できている。

今後の展望等

- ・昨年から新たな商品として、当事業所の主力商品である桑茶と黒枝豆茶を合体させた「黒枝豆と桑の葉をブレンドしたお茶」を開発し、今年から本格的に生産する。本商品には、事業所で栽培した黒枝豆をたくさん使いたい。
- ・当地域では、今後も遊休農地や耕作放棄地、空き家の管理等の依頼が増え続けられると思われる。そのような中で、当事業所が地域農業の維持と地域の活性化に向けてどのような貢献できるのか考えたい。